『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』企業応募データ ①

NO. 200456

企業・団体情報	
管理ID	200456
上場区分	非上場
従業員数	5，000人以上
メイン業種	自動車・輸送用機器

インターンシップ情報					
開催月	2021年8月　2021年9月　2021年11月				
実施回数	1　回	学生の受入日数	11　日	総受入人数	15　人
対象属性（文理）	理系学生のみを対象			単位認定	いいえ
低学年参加	大学1・2年生にも積極的に募集を行った			産学連携	いいえ
他企業などとの連携か？	いいえ	報酬・支給	交通費の支給あり　宿泊費の支給あり　食事代の支給あり	実働時間と賃金	
実施形式	一部オンラインで実施				

ISタイトル

オンライングローバルインターンシップ2021

オリエンテーション　事前学習（実施項目）

業界・企業・仕事内容の説明　インターンシップの内容説明　社長の講演　インターンシップ参加目的の明確化　学生1人ひとりに対する目標設定　人事や社員による講義・レクチャー　就職活動に対するアドバイス・レクチャー　社員との交流・座談会

オリエンテーション　事前学習 内容詳細（自由記述）

学生1人ひとりに対する目標設定→3人1組のチームで行うインターンシップだった為、各チームに対して目標設定を行った。
社長の講演→ボッシュジャパンの社長から自身が学生だった頃の話や、これまでのキャリアについてメッセージ

インターンシップ　実施項目

【実務体験】実際の業務を全て実施　【交流】社員の同行等による仕事見学やオフィス・工場・研究所などの職場見学　【交流】社員との座談会　【交流】参加学生との座談会　【その他】人事や社員による講義・レクチャー　【その他】就職活動に対するアドバイス・レクチャー

インターンシップ　内容詳細（自由記述）

私たちがインターンシップで大切にしていることは、インターンシップ用のタスクを作って学生に渡すのではなく、社員が実際に行っている業務をそのまま学生に経験して頂く実務経験です。
新型コロナウイルスが流行する前の本インターンシップは、20人ほどの学生をボッシュの海外拠点（インド、ベトナム、タイ）に連れて行き、現地の実務を行っていただきました。

一昨年のグローバルインターンシップは新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいましたが、昨年は学生からの強い要望に応える為、ベトナム法人とは完全オンラインでグローバルインターンシップを開催しました。

3人1チーム、計5組のチームでインターンシップを行い、全てのチームに実務プロジェクトをお渡ししました。
インターンシップ期間中はホテルに宿泊をしてもらい、遠隔でベトナムとタスクを進めて頂く一方で、隔日の抗原検査を行いながら横浜研究所に出社をして自身が書いたコードの実車テストを行っていただきました。
ベトナム社員とのコミュニケーションは英語だったので最初は戸惑う学生もいましたが、チームで協力をし合い、日々のプロジェクトを進め、最終日の成果発表会では自分たちのタスクや成果物をベトナムのメンターや社長に英語でプレゼンテーションを行っていただきました。

期間中は日本とベトナム双方の社員にメンターとしてサポートしてもらい不明点や進捗の相談など気軽に連絡できる体制を整えました。
サポートするメンターも学生と歳の近い世代に一任をし、プロジェクトのこと以外にも就活の相談等も行っていたようです。

インターンシップ終了後、2か月後の11月にもフォローアップイベントを行い自分自身の成長について再度見つめ直し、過去グローバルインターンシップに参加し、入社をした先輩社員を呼んで座談会も行い将来のキャリアデザインについて考える機会も提供しました。

協力社員数	20　人

協力社員の属性

社長　役員　部長　課長（マネージャー）　主任（チームリーダー）　若手社員

具体的社員交流

インターンシップ期間中は常に日本、ベトナムの若手社員と話せる環境を提供しました。
こちらから交流の機会を設けるのではなく学生の自主性を尊重し毎日のフィードバックやプロジェクトで行き詰った場合すぐに連絡をするように伝えました。
社員にも学生のプロジェクト進捗管理の依頼や、日々のタスクよりも学生との協業に注力をしてもらいました。
また、ベトナムとのオンラインランチやオンラインオフィスツアーも行い、日本にいながら海外法人の様子をオンラインで体験してもらいました。

フィードバック手法

グループに対する口頭と書面の両方　個人に対する口頭と書面の両方

フィードバック時間	1時間以上	フィードバック頻度	（2日間以上のプログラムのみ）期間中学生が参加した日は毎回行った

フィードバック内容詳細（自由記述）

①メンターから学生全員に対して毎日のフィードバック
チーム全体の進捗や個人のパフォーマンスに対してのフィードバック
メンターからはパフォーマンスに対してのフィードバックをしてもらい学生が今日できなかったことが明日できるようになる経験をしてもらいました。

②学生同士のフィードバック
1日の終わりに学生主導の「学生ミーティング」を実施させて各チームの進捗報告や相談、フィードバックを行った
学生が15人のミーティングを主導することで当事者意識の向上やファシリテーションスキルの向上をしてもらえるように意識しました。

③人事からのフィードバック
学生ミーティングの最後で人事が各チームに対してのフィードバック
ミーティングの進め方や社員への相談の仕方などのフィードバックも行いました。

フォローアップ　事後学習（実施項目）

学生自身によるインターンシップ経験の振り返り・学びの言語化　学生全体に対する評価・フィードバック　インターンシップ終了後の定期的な連絡・フォロー　人事や社員による講義・レクチャー　就職活動に対するアドバイス・レクチャー　社長や役員の講演　社員との交流会

フォローアップ　事後学習（自由記述）

本インターンシップ実施後の2か月後にフォローアップイベントを開催しました。
2か月ぶりにベトナム・日本の社員と再会をし、学生が行ったタスクが社員の業務にどのような影響を起こしているかのフィードバックも行いました。
インターンシップを経験して入社をした社員との交流会も行い、この経験がどのように活きているかも改めて実感してもらいました。
また、人事から就職活動についてもアドバイスをさせて頂き、インターンシップの経験を自分のキャリア形成にどのように生かすことが大切かもお伝えしました。

工夫ポイント（自由記述）

インターンシップ初日に、私たちが期待することやミッションのゴール、期限について明確に伝えてアウトプットのイメージを膨らませてもらいました。
実務をお渡しするうえで一番大切にしていたことの一つとして、サポート体制を徹底して整えました。
会社で初めてプロジェクトを行う学生も多い上に全てのタスクを英語で行うのは学生にとっても非常に有意義な経験になる一方で、サポート体制が整っていないと学生としても自信損失をしてしまいます。
それを避けるためにいかなる場合も対応できる体制を整えました。

教育的効果（自由記述）

社員と多くのコミュニケーションを取ってもらうことです。
人事以外の関係者全員が理系で共通していることも多く、社員が学生時代に何を考えて弊社に入社を決めたのか、学生時代の経験が今どう活きているのかなど、常にコミュニケーションをとって頂きました。
また本インターンシップを経験して入社をした社員との座談会も設けて、経験後の学業やキャリアについても話す機会を提供しました。

改善活動（自由記述）

・ホテルからオンラインでのインターンシップだったので通信環境の改善は今後も考えていかなくてはならないと思っています。（去年はベトナムもロックダウンで全社員が在宅勤務だった影響もあり、通信環境が良くなかった）
・受入人数を増やし、男女の参加比率を50:50まで引き上げ更なるダイバーシティ強化につなげたい（STEMの魅力を女子学生にも伝える機会としたい）
・ボッシュ海外法人の社員とのかかわりあいをもう少し増やしたい。